山形県建築士会女性委員会広報誌

あれこれ

2024年2月発行

令和5年度　第3号

担当：新庄支部

10／27　「歴史と文化の継承～ローカルに生きる～」

全国大会（しずおか）大会

第11回全国ヘリテージマネージャーネットワーク協議会総会に参加して　　大泉　みどり

全国大会前日に開催されました。初めに国登録有形文化財である静岡市役所本館にて講話と解説があり、一部は当文化財の設計者である「中村與資平」とその建築について、二部は「家康×原風景＝富士山２　～駿府城下町はどのように造られたか～」でした。一部の中村與資平は当時日本の統治下にあった朝鮮半島に渡り民間初の建築事務所をつくった人物で、帰国後も東京で鉄筋コンクリート建築設計を手がけ静岡県内においても、県庁舎、市庁舎、公会堂、銀行など多くの近代の公共建築に携わり、それらの建物は今も静岡県民の心の拠り所となっているとのことでした。二部は家康が隠居の地に駿府を選び城下町を造った、そのまちづくりについて、学問的には未だ論理立てて説明できていないが、家康の心情は「よい風景が人をつくる」「風景が人の心をつくる」である、家康の原風景は「富士山」であるという仮説を基に、誰もが愛する富士山が家康の生涯にどのような影響を与え、どのような考え方、行動を起こさせたのかを紐解きました。

講話の感慨に浸りながら、国登録有形文化財である静岡市役所本館→県庁舎本館（別館21階の110m超えの高さから家康が計画した駿府の町割りと富士山を望む）→駿府公園→歴史博物館等を巡り、その後、全国HMネットワーク協議会総会に参加しました。山形県は未だネットワーク協議会としての団体登録はなっていませんが賛同団体として参加することができました。役員改正や協定について等の他に、協議会運営等の状況やネットワーク組織の立上げ報告、そして被災歴史的建造物の調査・復旧方法のマニュアルや、他県の活動について聞くことが出来、また国登録有形文化財全国所有者の会のメンバーの方のお話を伺うことが出来たことは大変勉強になりました。

静岡県庁舎本館「設計：中村與資平」（国登録有形文化財）

11／18　「地域とつながる図書館」

山形県建築士会青年大会

山形県建築士会青年大会参加報告　　鶴岡田川支部　斎藤　美恵

令和5年11月18日、第35回山形県建築士会青年大会が開催され、女性委員会から6名が参加しました。大会テーマは「地域とつながる図書館」～青年建築士が考える図書館のカタチ～
庄内町立図書館、酒田市立図書館の見学会と式典・懇親会が行われました。

庄内町立図書館は庄内町役場庁舎に隣接し「みんなが集い、学び、ふれあい、つながる図書館」をコンセプトに建てられた図書館で、大空間を支える梁は地元の杉材が使用されています。配置された構造梁の整然さに目を奪われ、作り手の苦労を窺い知ることが出来ました。書棚の高さや各コーナーの配置などから誰もが利用しやすい図書館だと感じました。

酒田市立図書館は酒田駅前交流拠点施設「ミライニ」内に設けられた図書館で、児童エリアや閲覧席、静かな部屋、研修室など利用者が思い思いの時間を過ごせるように作られています。児童エリアには山居倉庫をモチーフにしたとんがりベンチや床板張りのスペースがあり、書庫や家具には酒田産の木材が使用されています。酒田の伝統工芸等を取り入れていてとても心地よい空間でした。市民も観光客も自由に、また親子で安心して利用できる図書館だと感じました。

懇親会では話に花が咲き、また酒田舞妓の酒田甚句や花笠音頭、クイズなどのアトラクションもあり楽しい時間を過ごさせていただきました。

今大会に参加して図書館のありかたや地域との関わりについて改めて考える良い機会となりました。

庄内町立図書館

酒田市立図書館
児童エリアおはなしの部屋

酒田市立図書館
児童エリアとんがりベンチ

庄内町立図書館

懇親会にて

編集後記

広報誌「あれこれ」では山形県建築士会女性委員会の活動をご紹介しております。ご興味ある方はお気軽にお問い合わせください。
最後にご協力頂きました皆さま２年間本当にありがとうございました！

お問合せ：山形県建築士会
☏023－643－4568
http://www.yamagata-ken.org

「かみのやま草屋根プロジェクト～地域の文化財を核とした歴史まちづくり～」
山形経済同友会「やまがた景観賞」奨励賞

『かみのやま草屋根プロジェクト』茅刈り体験に参加して　　山形支部　原田　江美子

山形県内には文化財に指定された茅葺屋根の歴史的建造物が53棟あり、そのうち9棟が上山市に現存し、県内市町村の中で最多の棟数を所有しています。地域に残る貴重な茅葺文化を保存し後世に伝えようと、国史跡「楢下宿」の住民で組織する羽州街道「楢下宿」研究会（佐藤司朗会長）では、楢下地域内の耕作放棄地を茅場に再生させ、その再生茅場で収穫した茅で歴史的建造物の茅葺屋根を修繕（維持管理）する活動を展開しています。

11月初旬の秋晴れの日『かみのやま草屋根プロジェクト』茅刈り体験に参加しました。令和3年にヘリテージマネージャー養成講習会を受講しましたが、歴史的建造物の保存、活用とはいうものの、自分に何ができるのか？まずは知る事が大切だとの思いからの参加でした。一緒に古川美紀さん（酒田支部）、三浦仁恵さん（天童支部）と娘さんも参加してくれました。

この日集まったのは、楢下地区会、楢下宿保存会、楢下子供会のほか上山市内の児童、東北芸術工科大学や山形大学の学生など。発足当初は18人から始めた茅刈り体験も、年々参加者が増え、8年目となるこの日は約80人が集まりました。

オープニングセレモニーの後、茅場に移動し作業開始です。

背丈以上に伸びた茅を2人1組となって広がらないように束ね、もう1人が刈り払い機で茅の根本を刈り払います。刈った茅を集め束ねる作業は子供たちが大活躍。皆が協力しスムーズに作業が進みます。広大な茅場に、「終わるのか？」と不安がありましたが、汗びっしょりになりながら、目標の正午まで綺麗に茅を刈り終えました。

お昼は、楢下ばあちゃんずくらぶの皆さんが用意してくれた芋煮とつきたての餅をいただきました。とても貴重な体験ができた有意義な一日を過ごすことができました。

そして、この「かみのやま草屋根プロジェクト」の取り組みが山形経済同友会主催の「やまがた景観賞」奨励賞に選ばれました。

これまで茅がなかなか手に入らないということで、茅葺屋根の修繕に県外の茅を使用していた。それならば地産地消で休耕地に茅を植え、それを収穫し地元の茅葺屋根の修繕に利用しようといったところが評価されたようです。

『かみのやま草屋根プロジェクト』茅刈り体験は毎年開催されます。

興味のある方はぜひ参加してください。

茅

（かや）は、古くから屋根材や飼肥料などに利用されてきた、イネ科あるいはイネ科およびカヤツリグサ科の草本の総称である。

語源には諸説あり、屋根を葺くことから刈屋あるいは上屋、あるいは朝鮮語起源とも。

「茅」は元来はカヤの1種のチガヤの意味で、カヤ全体の意味に広がった。

特徴は、イネやムギなどの茎（藁）は水を吸ってしまうのに対し、茅の茎は油分があるので水をはじき、耐水性が高い。

そのため、耐水性の高さから、茅の茎は屋根を葺くのに好適な材料となり、明治期以前の日本では重要な屋根材として用いられた。

屋根を葺くために刈り取った茅をとくに刈茅（かるかや）と呼び、これを用いて葺いた屋根を茅葺（かやぶき）屋根と呼んだ。

出典: フリー百科事典『ウィキペディア（Wikipedia）

枯れて穂の綿毛が開いた状態の茅。
一箇所から円形に束ねたように生えるススキと違い、根元付近は間隔が空いて生える。

天童支部女性委員会主催　第４回 緑 のカーテン写真コンテスト
受　賞　作　品

女性委員長賞

「４５年間ありがとう！」
寒河江市　にしね保育所　様

天童支部長賞

「白のグリーンカーテン」
長井市　鈴木　様

・・・入賞作品につきましては、山形県建築士会のホームページをご覧ください・・・